

	農学部応用生物化学科
DP	<p>応用生物化学科は、本学の立学の精神と学部の人材養成目的「生命科学、食料・健康科学、環境科学を基盤とした幅広い専門的学識を有し、洞察力、創造力および実践力を備え、社会に貢献できる人材の養成」および学科の人材養成目的「化学を基盤とした生命現象・食品機能・生物制御機構の解明と応用に関する論理的思考力、実践力、倫理観を有し、バイオテクノロジー・食品・医薬品・化粧品・健康・医療関連産業、教育、行政などの分野において国内外で広く活躍できる専門家や指導者の養成」に基づき、以下の資質・能力を身に付け、所定の期間在学して卒業に必要な124単位以上を修得した学生に対して、学士(農学)の学位を授与します。</p> <p>①高い教養、言語力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、生き物・自然に対する敬愛の念、高い倫理観および豊かな人間性を身に付けている。</p> <p>②応用生物化学(生命科学、食品科学、生物有機化学)と科学リテラシーに関する高度な専門的学識、論理的思考力、研究デザイン能力、解析技術、研究遂行能力、情報技術および情報発信能力を有し、生命現象や自然環境を分子レベルで正しく理解することによって健康長寿社会や環境調和型社会の実現に貢献することができる。</p> <p>③生命科学、食品科学、生物有機化学分野における課題探求能力および問題解決能力を修得し、人生における学問の重要性を理解して生涯にわたって主体的に学び、様々な分野で中心的、協調的、独創的に活躍できる応用力や適応力を身に付けている。</p>
CP	<p>応用生物化学科は、学科の人材養成目的を達成し、学位授与方針に示す資質・能力を身に付けさせるため、教養教育部門と専門教育部門からなる教育課程を編成しています。それぞれの部門において一定数以上の単位を修得することを義務付け、高い教養と幅広い基礎知識を基盤として、様々な分野で活躍できる能力を身に付けさせることを目標としています。</p> <p>①教養教育部門は、基軸科目、人文社会科目、自然科学科目、言語コミュニケーション科目、情報技術科目、健康とスポーツ科目、キャリア教育科目から編成され、高い教養、言語力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、生き物・自然に対する敬愛の念、高い倫理観および豊かな人間性を身に付けさせる。</p> <p>②専門教育部門は、基礎教育科目群と専門教育科目群から編成され、基礎から応用へ段階的に学修できるように各科目が体系的に配置されている。また、講義による理論・知識の教授だけでなく、実験・実習・演習を通して自ら学ぶ力を養成する。すべての科目において、学生と教員による双方向型授業を充実させ、自発的な学修態度を身に付けさせる。</p> <p>③学科専門教育の集大成として、3年次に学生を研究室に配属し、4年次において担当教員による指導の下で卒業研究を行わせる。卒業研究は各学生が研究テーマを選択することにより個性を尊重する教育の場ともなっている。また、実際に卒業研究を遂行するにあたって教員や他の学生との議論を通して、様々な情報を基に研究計画を立案させる。さらに実験・解析を行わせ、得られた研究成果を取りまとめ学年末に卒業研究発表会において発表させる。これら一連の作業により課題探求能力、問題解決能力、実践力、表現力、倫理観および協調性を身に付けさせる。</p> <p>④本方針を有効に機能させ、学びの質を向上・深化させるために、各学年の履修登録単位数に上限を設け、3・4年次への進級基準単位数も設定している。また、開講科目については、シラバスにより授業計画、学習到達目標、成績評価基準などを公表している。さらに、学位授与方針に対応したポートフォリオや学修結果を各学生に作成・分析させ自学自修に活用させるだけでなく、国際的な成績評価制度(GPA)を導入して指導教員による学修指導に利用している。</p>
AP	<p>応用生物化学科は、学科の人材養成目的を理解し、高等学校などにおける学習を通して、次の能力・態度を身に付けている人を受け入れます。</p> <p>①学科での学修の基盤となる化学、生物、物理、数学、国語、英語などに関する基礎知識と応用力を身に付けている。</p> <p>②遺伝子工学やバイオテクノロジー、食品の安全・安心と美味しさ、食と健康、有用な生物活性物質の探索・合成・活性発現の分子機構、生体・食品関連物質の物性解析や物性評価法の開発などに関する学問を学ぶことに強い関心や意欲を持っている。</p> <p>③課題探求活動に積極的に取り組み、主体的、継続的、協調的に学修する力を身に付け、生涯にわたり学び続ける意欲を持っている。</p>